

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

## 事業名 **新** 障がい者音楽祭開催費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局文化創造課文化振興係 電話番号：058-272-1111(内 2458)

E-mail：[c11146@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11146@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 5,500 千円 (前年度予算額：0 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,500	0	0	0	0	0	0	0	5,500
決定額	5,500	2,750	0	0	0	0	0	0	2,750

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

新型コロナウイルス感染症の影響により、障がい児者による音楽活動の発表の場の中止・延期が相次いでいる。

このような状況下でも、障がい児者による文化芸術活動の灯を守るため、発表の場を創出することが必要である。

### (2) 事業内容

○「障がい者音楽祭～ぎふ清流大会～(仮称)」の創設

障がい者及び障がい者団体を対象とした、音楽ジャンルや楽器を問わない音楽祭をぎふ清流文化プラザで開催する。

### (3) 県負担・補助率の考え方

本県の文化振興を図る上で重要な事業であり、県の負担は妥当である。

### (4) 類似事業の有無

無

### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額（千円）	事業内容の詳細
補助金	5,500	「障がい者音楽祭～ぎふ清流大会～（仮称）」の開催
合計	5,500	

#### 決定額の考え方

財源については、地方創生推進交付金を充当します

### 4 参考事項

#### （1）各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創成総合戦略による位置づけ
  - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
    - （1）地域の魅力の創造・伝承・発信
      - ①「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承
- 第2期岐阜県障がい者総合支援プラン（障がい者の芸術文化活動の振興）

#### （2）事業主体及びその妥当性

本補助金を受けて（公財）岐阜県教育文化財団が事業を実施する。

（公財）岐阜県教育文化財団は、人材の養成と県民文化・地域文化の創造・発展ならびに芸術文化・伝統文化・生活文化等の保存・継承を目的として活動している財団であり、事業主体として妥当である。

## 県単独補助金事業評価調書

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

補助事業名	障がい者音楽祭開催費補助金
補助事業者（団体）	（公財）岐阜県教育文化財団 （理由）当該財団は、人材の養成と県民文化・地域文化の創造・発展ならびに芸術文化・伝統文化・生活文化等の保存・継承を目的として活動している財団であり、事業主体として妥当である。
補助事業の概要	（目的）文化活動への参加及び創造を促進する （内容）「障がい者音楽祭～ぎふ清流大会～（仮称）」の開催
補助率・補助単価等	定額・定率・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">その他</span> （内容）県 10 / 10 （理由）本県の文化振興事業を図る重要な事業であり、補助対象経費を全額県負担とする。
補助効果	事業によって県文化の発展・継続が見込める
終期の設定	終期令和 5 年度 （理由）「『清流の国ぎふ』創成総合戦略」の終期であるため。

### （事業目標）

<p>・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>音楽を通じた障がいの個性の尊重・成長の支援により、音楽を愛する障がいの新たな才能の発掘や障がいの文化芸術活動の促進を図る。</p>
--

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2 年度末)	目標 (R3 年度末)	目標 (終期 R5 年度末)
障がい者音楽祭 参加者数	0	20	60

	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度 (要求)
補助金交付実績	千円	千円	千円	千円	5,500 千円
指標目標					20
指標実績					(推計値)
指標達成率					(推計値)

(前年度の成果)

--

(今後の課題)

--

(事業の評価)

・ 事業の必要性 (社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か) ○ : 必要性が高い、△ : 必要性が低い	
(評価) ○	コロナ社会を生き抜く「新しい日常」に対応したイベントの開催により、「清流の国ぎふ」の障がい者文化芸術を創造・発信していく必要がある。
・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) ○ : 概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △ : まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価)	
・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) ○ : 効率化は図られている、△ : 向上の余地がある	
(評価)	

(事業の見直し検討)

--

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

<b>継続</b> ・削減・統合・廃止
(理由) 障がい者の文化活動を適切に支援・振興すべく、現状を踏まえ、事業の在り方・手法を見直す必要がある。